

introduction

成人期足部変形という、どのような疾患を思い浮かべるでしょうか。まず凹足変形が挙げられると思いますが、これは小児期からの先天性内反足や麻痺足が成人になっても残っている場合も含まれます。その対となる変形としては、扁平足が代表的な疾患であると考えられます。こちらも小児期からの扁平足が成人になっても残っている例もありますが、成人発症の扁平足も最近増えてきております。極端な変形がある例は別として、どちらの疾患も正常足との境界領域が存在し、また診断基準も明確でない部分があり、一般の整形外科医のみならず、足を専門とする医師にとっても診断・治療に難渋することが多い疾患群であります。しかし、裏を返せば、やりがいのある分野であるといえるのではないのでしょうか。診断と治療に関して、どこまでがわかっていて何がわかっていないのかということ、一度整理したいという思いから本特集を企画いたしました。

前半は凹足変形に関して、診断体系と典型的な疾患に対する手術法について、その適応も含めて記載していただきました。また、後半には扁平足の分類について述べていただくとともに、最近新しく出てきた概念である progress collapsing foot deformity (PCFD) について解説していただきました。典型的な成人期扁平足をきたす後脛骨筋腱機能不全症も当然 PCFD に包括されていますが、手術適応や手術法に関しては、まだ十分確立されている状況ではありません。しかし、現状では一般的にどのように治療されているのかを、わかりやすく解説していただいております。さらに、凹足と扁平足以外の変形としては、関節リウマチや神経障害性関節症による足部変形についても言及していただいております。

成人期足部変形矯正は足の外科の醍醐味の1つでありますので、是非熟読いただき、より積極的に診療に取り組んでいただければ幸甚に存じます。

奈良県立医科大学整形外科学
田中康仁